

リーダーの横顔 -役員改選を終えて-

新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、定期総会は書面での開催となった。2020年は役員改選の年ということもあり、全ての改選が無事に終わり新体制で運営がスタートした。ここでは各リーダーの今後の運営目標と酪青研にける意気込み、その素顔を紹介していく。

十勝協議会 高野 修一会長



高野会長(大樹町)

目標「酪青研会員の参加率向上と活性化の実現」

高野会長は現在41歳。十勝協議会会長は今期で2期目に突入する。座右の銘は「健土健民」。趣味は車とグルメ。好きな雪印製品はゴーダチーズ(大樹工場のゴーダはやっぱり美味しい！)。

北部十勝地方連 佐藤 光寿委員長



佐藤委員長(陸別町)

目標「withコロナ ー新しい酪農経営の確立ー」

佐藤委員長は現在55歳。北部地方連委員長は今期で5期目に突入する。座右の銘は「天上天下唯我独尊」。趣味は酒と車。好きな雪印製品は雪印メグミルク牛乳(やっぱり牛乳は赤パック！)。

西部十勝地方連 藤井 稔委員長



藤井委員長(清水町)

目標「自分らしく着実に事業運営を実行する」

藤井委員長は現在48歳。西部地方連の新委員長に就任した。座右の銘は「一生懸命」。趣味は車と酒。好きな雪印製品はさけるチーズ(あの製造技術・味わいは業界トップレベル！)。

南部十勝地方連 岡田 純一委員長



岡田委員長(広尾町)

目標「家族間の交流を酪青研で強固にしていく」

岡田会長は現在44歳。高野前委員長が兼務されていたことから、今回初めて南部地方連の新委員長に就任した。座右の銘は「不言実行」。趣味は音楽と家族旅行。好きな雪印製品はゴーダークラッシュ。※広尾単研会長も兼務される為紹介は割愛致します。

大樹酪農青年研究会 前田 竜志会長



前田会長(大樹町)

目標「若年酪青研会員の活性化と新規会員獲得」

前田会長は現在31歳。大樹酪農青年研究会の会長は今期で2期目に突入する。座右の銘は「猪突猛進」。趣味は最近始めたゴルフ。好きな雪印製品は雪印バター(味はバターで決まる！)。



発行人:日本酪農青年研究連盟 十勝協議会 会長 高野 修一
事務局:雪印メグミルク(株) 大樹工場内(十勝協議会事務局 大山冬馬)
連絡先:TEL;01558-6-2121 FAX;01558-6-2124



特集 酪青研キーマンを訪問

今回は十勝協議会 会長を務める高野修一会長にお話をお伺い致します。

File.08 高野修一さん 「日常の環境を当たり前と思わない」

(南部十勝地方連 大樹単研)



「今ある経営環境は決して当たり前ではない。自分の牧場の不自由を嘆くのではなく、今ここにある環境で何が出来るのか、どこを工夫出来るのかを教えてくれたのが酪青研。全国に広がるネットワークを駆使し、目の前にある当たり前の環境に感謝できるようになった。」と笑顔で語る高野会長。元々、実家の牧場を継ぐ気はなかったと振り返る。現在に至るまでに高野会長がどのような道を歩んできたのか、牧場概要と共に酪青研に対しての熱い思いにクローズアップする。

「新しい視点が自分への大きな刺激に」

高野会長は中学校までを大樹町で過ごし、高校は札幌の進学校に入学。その後、考古学を学びたいとの思いでオーストラリアの大学に留学し、社会人になってからは東京で生活していたが結婚を機に大樹町に帰郷。2007年頃から本格的に高野牧場の後継者として着実に経験を積んできた。そんな時に地域の酪農仲間から酪青研に誘われたのがきっかけで入会。大樹町以外の仲間に出会えたことは今までにない刺激だったと振り返る。「高校から地元を離れ、酪農とは縁のない生活を送って来た。そんな中、酪青研に入って地元以外のネットワークが格段に広がった。このつながりは大きな財産。活動に参加する酪農家は優秀な経営者が多い」と語る。だからこそ高野会長自身もその輪にもっと入りたいと思うようになったという。



「今ある資源を最大限に活用していく」



牧場は2012年まで搾乳ロボットによる営農を展開してきたが、機械類の老朽化・将来の規模拡大に備え、2013年にFS牛舎1棟、パーラー搾乳施設・スラリーストアを新設。2019年には新たにFS牛舎1棟を増築した。牧場の従業員確保や財政健全化を図るため、2015年に株式会社Linksとして再出発し現在に至る。草地面積は85ha、デントコーン40ha、搾乳頭数約160頭、年間出荷乳量は約1,700tを誇る。若手会員の中でも、人一倍の増産意欲と様々な知識を吸収するその姿勢は多くの会員に刺激を与えている。「収入を上げようと新しい

技術ばかり取入れてるのはちょっと違うと思う。酪農はある程度、技術が確立されている。だからこそ基本を忠実に行い、今ある資源で知恵を絞ることさえできれば儲かる酪農経営は実践できる。」と自らの経営方針について振り返る。

「乳業が安定的に操業することが生産者の支えになる」

今回の新型コロナウイルス感染拡大を受け、乳業がいかに需給調整に努力しているのかを痛感したと言う。「酪農経営においてはブル乳価が若干下がったのを除いて、大きなダメージはなかった。まずは工場がしっかり生乳を受入れ、トラブルなく操業してくれたことが生産者の支えになる。こんな時こそ我々には出来ることは、しっかり生産をして消費者に生乳を供給できるようにすること。これが酪農家の社会的責務だと思う」と思いを滲ませた。絶えず前進していくその姿勢は、見ているこちらまでもが背中を押される。未来に期待が膨らむ若き酪青研リーダー。今後の活躍に目が離せない。



酪農語録「人が社会を作り、人が社会を動かす」 言葉:元全農会長 太田寛一